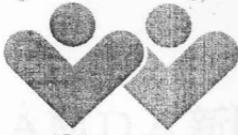


ひとのハートはあったかい



明美ちゃん基金

活動に拡大した第一号で、基金から一千万円を拠出、病院建設費用として役立てられる。12、13面に特集

産経新聞社提唱「明美ちゃん基金」が、国連NGO「AMDA」(アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)がミャンマーで進めている子ども病院建設プロジェクトに適用されることが二十一日決まった。適用範囲を発展途上国で難病に苦しむ子供たちの医療活動に拡大した第一号で、基金から一千万円を拠出、病院建設費用として役立てられる。12、13面に特集

明美ちゃん基金拡大

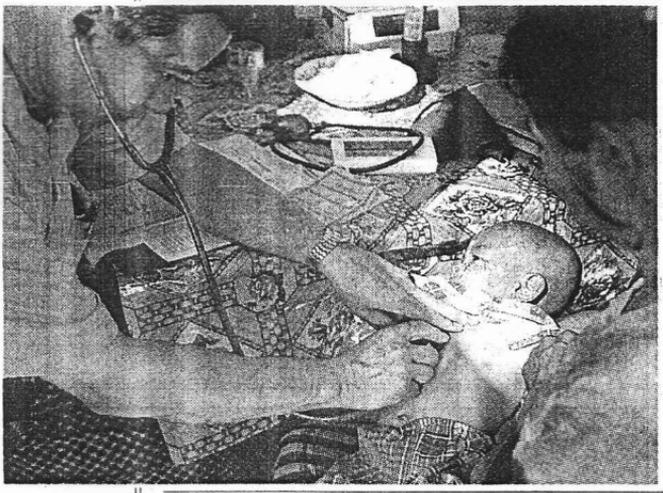
「ミャンマー子ども病院」は、同国中部のメッティラ地区にある保健省所管のメッティラ病院に併設して建設。一般病室のほか集中治療室、新生児室、子ども遊戯室など約二十室を設ける。十一月二十日に起工式が行われ、来年末には完成の予定。当面、AMDAの医師が常駐して診療にあたるほか、ミャンマー人医師、看護婦の養成機関としても期待されている。

メッティラ地区は人口約二十八万二千人で、うち十五歳以下が三分の一を占めるが、小児専門病院がない。治療の遅れから幼い命を失うケースも少なくなく、必要と判断。AMD Aはこれまで、明美ちゃん基金では、A M D Aからの申請を検討し、日本人医師を現地に派遣して巡回診療を行ってきた結果、医療・衛生基盤が

AMDAに初適用

ミャンマー子ども病院建設で

未整備な途上国の子供たちを救う基金の趣旨に合致することを認め、適用を決めた。AMD Aは昭和五十九年設立。世界二十一カ国に支部を持ち、フィリピン、ピナツポ火山噴火、インドネシア・スマトラ島南部地震、最近では中米を襲ったハリケーンなどの被災地や紛争地域に医師を派遣して救援活動を展開している。平成七年には国連経済社会理事会登録の「国連NGO」(カタゴリーII)に認められた。



幼児を診察するAMDAの医師。子ども病院建設を、明美ちゃん基金が支援する。ミャンマー・メッティラ地区(前川純一郎撮影)

五千万円と見込まれる。明美ちゃん基金のほか、外務省の草の根無償資金協力が、最近では中米を襲ったらの拠出が決まっており、さらに日本とミャンマー両国に支援委員会が作られ、募金活動を行う。AMD Aは昭和五十九年設立。世界二十一カ国に支部を持ち、フィリピン、ピナツポ火山噴火、インドネシア・スマトラ島南部地震、最近では中米を襲ったハリケーンなどの被災地や紛争地域に医師を派遣して救援活動を展開している。平成七年には国連経済社会理事会登録の「国連NGO」(カタゴリーII)に認められた。

菅波茂・AMDA代表の話 「ミャンマーと日本のつながりは深いものがあります。今回の病院の建設で、より多くのミャンマーの子供たちの命を救うことができ、こうした人道援助はさらに両国の人間レベルのきずなを深めることにもつながると思っています。明美ちゃん基金に厚くお礼を申し上げます。」